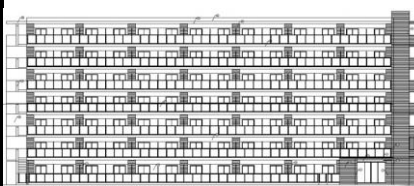


| 1-1 建物概要 |  | 1-2 外観 |                |
|----------|--|--------|----------------|
| 建物名称     | (仮称)N-STAGE大和II新築工事                        | 階数     | 地上7F           |
| 建設地      | 大和市大和東三丁目807-4, 807-5, 807-6, 807-7, 807-8 | 構造     | RC造            |
| 用途地域     | 第1種住居地域 近隣商業地域                             | 平均居住人員 | 96人            |
| 地域区分     | 6地域  | 年間使用時間 | 8,760時間/年(想定値) |
| 建物用途     | 集合住宅                                       | 評価の段階  | 実施設計段階評価       |
| 竣工年      | 2018年10月 予定                                | 評価の実施日 | 2017年7月25日     |
| 敷地面積     | 1,054㎡                                     | 作成者    | 株式会社ソシアル総合設計   |
| 建築面積     | 566㎡                                       | 確認日    | 2017年7月25日     |
| 延床面積     | 2,234㎡                                     | 確認者    | 株式会社ソシアル 72    |



| 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)  | 2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)   | 2-3 大項目の評価(レーダーチャート) |
|--|--|----------------------|
| <p><b>BEE = 0.9</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p> | <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p> |                      |

| 2-4 中項目の評価(バーチャート)                    |  |   |
|---------------------------------------|--|---|
| <p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 2.8</p>      |  |   |
| <p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 2.9</p>    | <p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.1</p>     | <p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.3</p> |
| <p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.1</p> |  |   |
| <p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.2</p> | <p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 2.7</p> | <p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.3</p>   |

| 3 設計上の配慮事項  |   |   |
|---|---|---|
| <p><b>総合</b></p> <p>駅からもほど近い利便性の高い敷地に、単身者を意識した共同住宅を計画した。また、良好な住居環境を提供するために音環境や将来の改修に主眼をおき、エネルギー消費量の削減など地球環境に配慮した計画となるようにした。</p> |   | <p><b>その他</b></p> <p>建設工事において発生する廃棄物は徹底して分別を行い、資源のリサイクル化に努める。</p>                 |
| <p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>適度な大きさの開口部を計画し、室内の明るさの確保に配慮した。また、建物に使用する建築材料を全面的にF☆☆☆☆とした。</p>   | <p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>耐用年数の長い配管を採用することで、メンテナンスの手間を極力省くように配慮した。</p> | <p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>可能なかぎり植栽帯と設置し、地域環境と地球環境に貢献できる計画とした。</p>             |
| <p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>高効率の設備機器を採用し、エネルギー消費量の削減に配慮した。</p>   | <p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>解体後のリサイクルを考慮し、躯体と仕上材が容易に分別できるようにした。</p>   | <p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>敷地内に屋内型のごみ置場を設置し、多種分別可能なストックスペースを確保し廃棄物処理負荷抑制に努める。</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される